

いしかり砂丘の風資料館紀要

第6巻

BULLETIN OF THE ISHIKARI LOCAL MUSEUM

Volume 6

March, 2016



A：オオサルパ、全長約20cm,
(2015年6月19日, 石狩浜)



B：水中のオオサルパ
(Aとは別個体)。



C：モモイロサルパ、全長約10cm,
(2015年11月19日, 石狩浜)

口絵1. 石狩浜で確認されたサルパの漂着.

口絵1. 11年ぶりに石狩浜で確認されたサルパの漂着

Salpae stranded on the Ishikari Beach, Hokkaido, Japan for the first time in 11 years

サルパは脊索動物門タリヤ綱に属する浮遊生物で、世界中の海に広く分布する。日本近海では暖水域を中心に20種あまりが見られる（西川，1995）。単独個虫の場合と群体を形成する場合とがある。樽型で透明な体を持っている。

サルパ類が石狩湾沿岸で確認されることは極めて稀だが，2015年6月19日，石狩湾奥部の石狩浜で，オオサルパ *Thetys vagina* 5個体が漂着しているのを確認した（A，B）。漂着後間もないことを推察させる新鮮な状態で，一部の個体では体内の器官がまだ動いているのが確認できた。石狩浜におけるオオサルパの漂着は，2004年5月22日に複数個体が確認（志賀，2004）されて以来，11年ぶりである。

さらに2015年11月19日には，同じく石狩浜でモモイロサルパ *Pegea confoederata* の漂着が確認された（C）。汀線長500mを観察した中で20個体が見られた。モモイロサルパが石狩浜で確認されたのは，今回が初めてである。

（志賀健司）



引用文献

西川輝昭，1995．尾索動物亜門．西村三郎編，原色検索日本海岸動物図鑑Ⅱ．保育社．
志賀健司，2004．石狩博物誌第56回／謎の漂着物!?. 広報いしかり（620）：14．



A-1：漂着ココヤシ①（開口部を上にして撮影）。



A-2：漂着ココヤシ①（開口部を下にして撮影）。



B-1：漂着ココヤシ②（開口部を上にして撮影）。



B-2：漂着ココヤシ②（開口部を下にして撮影）。



C：「タイ産ココナッツ」。



D：Cの尖った部分から開口。



E：Dの胚乳を除去して自然乾燥（半年以上経過した状態）。

口絵2. 容器状の漂着ココヤシ

口絵2. 容器状の漂着ココヤシ

The stranded coconuts pared in the shape of vessel

石狩湾沿岸に流れ着く漂着物の一つにココヤシの果実がある。これまでに、いしかり砂丘の風資料館で確認してきた漂着ココヤシは、果実の一部に加工痕がみられる場合があるだけで、外果皮のついたままのもの、あるいは外果皮が剥がれ落ちて中果皮が外面に現れた状態のものがほとんどであった。その中で、一端が開いた容器状のココヤシ2点が採取された（A、B）。採取者は石橋孝夫氏である。1点目（漂着ココヤシ①）は、2015年2月12日に旧知津狩川の河口で採取されたものである（A）。大きさは、高さ9.0cm、幅11.5cm、開口部の直径6.0cm、中果皮の色は暗褐色で、外果皮を取り除き中果皮上面まで削り込んだ加工痕が明瞭に残っている。2点目（漂着ココヤシ②）は、2015年3月13日に石狩川左岸河口で採取されたものである（B）。大きさは、高さ10.5cm、幅11.5cm、開口部の直径6.5cm、中果皮の色は暗褐色である。漂着ココヤシ①と②は、同様の方法で加工して外果皮を除去したものとみられ、両者の形態や大きさは酷似している。



2点の加工された漂着ココヤシ①と②について、具体的な類例を検討したところ、「タイ産ココナッツ」として販売されているものに類似品を確認することができた（C）。ココヤシ果実の外果皮を取り除いた状態で販売されており、外面には中果皮まで削り込んだ加工痕が明瞭に残されている。この段階では一端が尖った形状をしているが、内部にある液状胚乳や固形胚乳を飲食するために、この部分を円形に切り抜いてみたところ、漂着ココヤシ①と②に類似した容器状になった（D）。ココヤシ中果皮の色は、最初は白色であったが、胚乳を除去して自然乾燥させたところ徐々に変化し、数か月後には淡い赤褐色になった（E）。大きさは高さ（開口後）9.3cm、幅10.2cm、開口部の直径5.0cmで、漂着ココヤシ①および②とほぼ同形に復元された。

漂着物として採取された容器状の漂着ココヤシ①と②は、胚乳が入った状態の果実を販売用として外果皮を加工処理したものと考えられる。おそらくは、船上などで果実を開口して飲食されたものが破棄され、浮遊・漂着している間に中果皮は褐色へと変化したと推測される。

（荒山千恵）

いしかり砂丘の風資料館 紀要

第6巻

目次

論説

- 石橋 孝夫：北海道チョウザメの博物誌2
—明治期以降の北海道におけるチョウザメ捕獲に関する記録集成— …1
- 石橋 孝夫：北海道チョウザメの博物誌3
—煙草入れ（カハコモ）はどのチョウザメ皮で作られたか？— …9
- 荒山 千恵：石狩紅葉山49号遺跡を活用した出張授業・出張展示の実施（2） …13
- 井口 利夫：嘉永期以前の石狩辨天社について …25
- 伊藤 由起子：明治初期における北海道開拓使によるハマナスの香料，香水づくり
—開拓使文書から，その経緯を読み解く— …39
- 百瀬 響：開拓使札幌本庁による最後のオムシャ施行について
—付：早川昇再録アイヌ語通辞資料— …51

報告

- 内藤 華子・志賀 健司：石狩川河口左岸域におけるヒキガエルの定着について …65
- 志賀 健司：2005年から2015年の石狩浜における海水温・塩分濃度の日変動 …71

資料

- 荒山 千恵：石狩市の市指定文化財「石狩紅葉山49号遺跡出土の木製品」 …77

口絵

- 11年ぶりに石狩浜で確認されたサルバの漂着 …i
- 容器状の漂着ココヤシ …iii

